

# 平凡で孤独な日常に、ふと訪れるちょっぴりビターな“しあわせ”

舞台はエレベーターの壊れたフランス、郊外のおんぼろ団地。不器用だが愛すべき6人の男女に突然舞い降りた思いがけない奇跡の出逢い。そのとき、何の変哲もない灰色がかったモノトーンの箱から一人ひとりの人生が色あざやかにあふれ出す。いま、日本映画界はちょっとした団地映画ブーム（『団地』阪本順治監督、『海よりもまだ深く』是枝裕和監督など）！このたび、はるばるフランスからも団地を舞台にした、観た後に心がほっとあたたかくなり優しい気持ちになれる映画が上陸。監督は、自身も団地で育った、俳優でもあるサミュエル・ベンシェトリ。思いやりと品のよいユーモアに満ちた詩的な世界をつくり上げた。

## 個性的な俳優たちによる奇跡の共演！

フランス映画界を牽引する名女優イザベル・ユペール、ハリウッドから参加のマイケル・ピット、イタリア映画にもかかせないヴァレリア・ブルーニ・テデスキと豪華なキャストが集結。イザベル・ユペールの相手役を堂々と務めた新星は監督の息子ジュール・ベンシェトリ。女優の故マリー・トランティニヤンの四男でありジャン＝ルイ・トランティニヤンを祖父にもつサラブレッド。本格的な長編映画は初出演ながら、年上女性を掌でころがすオレ様系男子を好演！また『マディソン郡の橋』につられてカメラマンのふりをしてしまう中年男を演じたギュスタヴ・ケルヴァンのコミカルさ、いたずらっぽい瞳が印象的なタサディット・マンディのあたたかさも加わって見事な化学反応を起こしている。

## 孤独を抱えた6人の男女に、3つの予期せぬ出逢いが訪れる群像劇

### 車椅子の自称カメラマン × 夜勤の看護師

団地の一室。故障続きのエレベーターの交換について話し合う住人たち。皆が費用負担に賛成するなか、スタンコヴィッチだけ「自分は2階だからエレベーターは使わない」と費用負担を拒む。そんな彼に出された条件は「金を払わないかわりにエレベーターを使わない」こと。



### 鍵っ子の高校生 × 落ちぶれた女優

朝、10代の少年シャルリが目覚めると、窓の外から引越し用の大型トラックのバック音が聞こえる。部屋に母親の姿はない。テーブルの上に置かれた給食代をポケットに入れ、家を出る。慣れた手つきで自転車を担ぎ下る階段で、たくさんの荷物を運びこむ引越し業者とすれ違う。



### 英語が通じない移民の女性 × NASAの宇宙飛行士

刑務所の面会日。アラブ系のマダム・ハミダは収監されている息子に会いに行くが、医務室にいるという息子に会わせてもらえない。職員に差し入れの品の受け渡しも拒まれるものの、持ち前の明るい笑顔を見せる。

## アスファルト

言葉は通じなくても、求めれば人は人と心を通わすことができる。そう信じることで、無機質なコンクリートの団地にも奇跡は起きるのだ。そんな優しい気持ちになれる素敵なファンタジーだった。  
—— 是枝裕和（映画監督『海よりもまだ深く』）

イザベル・ユペールを始めとした俳優たちが本当に等身大と思える佇まいでそこに立っている。それだけでも贅沢な映画なのに、しかも洗練を極めたユーモアに満ちているのだ。驚くべき展開はあるが、描かれる感情に余計な過剰さはない。シンプルなのに複雑な迷路には、ただ愛が満ちている。こんな団地に住んでみたい。  
—— 深田晃司（映画監督『淵に立つ』）

毎日猫に振り回されている自分って、この映画の中の誰かのような気がした。人生もこの映画のように、大げさな涙や感動や爆笑でなく、可笑しみがほしいものだったと思った。  
—— 保坂和志（作家）



主催：TAMA 映画フォーラム実行委員会  
お問合せ：080-5450-7204（事務局直通）  
042-337-6661（永山公民館代表）  
※上映当日は 070-5580-9071（会場）へ

Twitter で最新情報をフォロー  
@tamaeiga

Facebook ページに「いいね！」で参加  
<http://www.facebook.com/tamaeiga>



会場：多摩市立永山公民館  
ベルブ永山 5F  
（東京都多摩市永山1-5）  
ベルブホールは [京王相模原線・小田急多摩線]  
永山駅から徒歩 2分